



諸派(日本共産党) 石田 秀三 議員

- ①図書館サービスについて
- ②不燃物リサイクルセンター第2期事業へのPFI手法の導入について

質問① 移動図書館廃止の代替案として行おうとしている公民館への「配本事業」の再検討を求める。その理由は、31ヶ所もの場所に十分な図書の配置は出来ない。今の移動図書館のレベルのサービスも出来ない。そのための人員も予算もなしで進めることに無理がある、などである。

答弁① 予定どおり10月で移動図書館は廃止、11月から配本事業に移行する。サービスの目標は、移動

図書館の過去最高だった年間貸出数6万9千冊をめざす。各所に1千冊ほどを配本する。

質問② 2期事業の施設建設から運営までの全てを民間企業に任せる手法＝PFIを「導入可能」としたが、なぜPFIは10億円も安くなるのか、「削減期待値20%」の根拠は何か。20万市民のゴミ処理は一日も止めることが許されない市の仕事である。PFIにするとゴミ問題のノウハウが市から無くなる心配がある。

答弁② PFI導入可能性調査では、全体事業費で13.55%の削減が可能との結果が出された。削減期待値は先行事例を参考にしたものである。民間に全て任せるのではなく、市としてもモニタリングを行っていく。



諸派(日本共産党) 森川ヤスエ 議員

- ①地域支援事業の充実を図るために
- ②学校心の相談員等は全校配置を

質問① 改悪介護保険法施行により人手不足で困っている包括支援センターや、保健センターへの人的支援を求める。さらに10月からは介護度1や要支援1と2に認定された方に対し、ベットや車椅子が貸与されないが、利用者が引き続き利用できるよう支援を求める。

答弁① 本年度の状況等を踏まえ地域包括支援センターの運営について、鈴鹿亀山地区広域連合と協議、調整を図りたい。車椅子等の福祉用具の貸与は、原

則、保険給付の対象としないこととなったが、一定の条件に当てはまる方は、引き続き保険給付が受けられることとなっている。

質問② 学校に配置される心の相談員は、要望のある学校にすべて配置を。また相談者の身になって継続性のある配置を求める。

答弁② 「心の教室相談員」や「子どもと親の相談員」等を配置する条件は、不登校傾向の児童生徒数や、支援が必要と考えられる児童生徒数、指導が困難で学級経営上の問題に発展しているケースなど、それぞれの学校の困難な状況を判断基準として配置している。今後、各学校の実情に応じて、必要な学校に相談員を適切に配置できるよう努めたい。



無所属 杉本 信之 議員

- ①朝食を取らない子どもがいる事
- ②ガンの検診と治療について
- ③多重債務と自殺について

質問① その原因は何と考えられるか。朝食と学力の関係はどうか。また、親が朝食を取らない事をどう改善させるのか。朝ごはん条例を創ってはどうか。

答弁① 小学生で約3%、中学生で約10%が朝食を食べていない。深夜までテレビを見たりゲームをしたりして、生活の乱れが原因と思われ、保護者の生活習慣にも影響されている。文部科学省の調査では、朝食をとる子の平均点は529点で、取らない子の平均は473点と56点の差があった。保護者へは、朝食

の必要性や望ましい食生活について働きかける。

質問② 現在の状況と今後について。また、大腸ガンが増加しているが、玄米食や食物繊維の多い野菜を食べるように指導すべきと思うがどうか。

答弁② 検診は年間16401人が受診している。また、精密検査でガンが発見されたのは47人である。大腸ガンの増加は、生活習慣の欧米化に伴うことが要因と思われる。食事や運動面等を指導していく。

質問③ 消費者金融などの厳しい取り立てにたえられず、死を選ぶ人が増えている。多重債務の実態を市民に知らせ、予防する事が必要ではないか。

答弁③ 金銭トラブルのほとんどは必ず解決できるという事を各種団体と連携を図り、啓発していく。